

北朝鮮経済の現状と今後の展望に関する調査研究

(報告書の概要)

本報告書は北朝鮮について、政治社会体制、経済システム、国内経済の現状、対外経済関係、南北朝鮮の経済交流、援助の受け入れなどについて著したものである。

(報告書の主要構成)

(1) 金正日体制の現況

現体制のキーワードは「強盛大国」と「先軍」である。「強盛大国」は「政治・思想強国」「軍事強国」「経済強国」の三本柱からなり、前二者は「既に十分な水準に達している」との認識にあり、第三の「経済強国」建設が残された課題である。

(2) 経済システムと人事および予算

国家予算を中心とする計画経済の運営は、金正日の下で直接内閣が実施する仕組みで、金英日総理をはじめとする内閣のメンバーは当該部門から上がってくるテクノクラート型の人事構成である。国家予算は電力生産回復とそれに続く工業総生産の伸びによって収入を増やし、1998年以降一貫して拡大してきた。

(3) 北朝鮮経済の現状と課題

北朝鮮経済のネックになっているのは、電力やエネルギーの不足、インフラや産業設備の老朽化である。事態は好転してきてはいるが、電力不足が製造業の足を引っ張っているという全体的な状況には変わりはない。

(4) 北朝鮮の対外経済関係

2009年の北朝鮮の輸出は微減、輸入は大幅に減少したと思われる。日本との貿易では07年から日本の輸入はゼロとなっている。北朝鮮の直接投資の導入も中国や韓国など限られた範囲にとどまっている。

(5) 南北経済交流の現状と課題

南北間の経済交流は20年の歴史を持つ。北朝鮮は経済再生のため、韓国から食糧・肥料の支援受け入れ、農産物・鉱産物・鉄鋼金属の輸出、賃加工貿易や観光などによる外貨獲得、投資の受け入れ（開城工団）などにより相当な経済的利益（20年間で総額約78億ドル）を得ている。

(6) 対朝援助の受け入れと課題

国際社会による人道援助としての対朝援助は1995年夏から始まり、翌年の国連共同アピールにより大規模なものとなったが、2004年にアピールが終了すると対朝援助額は急減した。当初は食糧援助が大部分を占めていたが、重点は開発援助に移っている。